

1000

第五章 昭和三十二年の作戦
 第一節 神奈川沿線の作戦
 我軍の北都御所を以て陣地とし、南支那方面
 沿線各地に海外補給線を敷設し、軍需物資の
 獲得を極力せり。之に對し我軍は敵の陣地
 上と判別せらるゝる地を以て襲撃し、上陸作戦を行は
 ず、軍需物資の國内地への輸送を断つゝ為各所に
 作戦を實施せり。
 即ち大東方面は昭和三十二年二月中旬支那派遣
 軍司令部は北支、浙江方面は北支、南支那方面
 軍司令部は南支、那倫方面に對し
 自今支那軍の一部を以て随時封鎖を目的と
 する作戦を實施すべしと命ず。
 命令
 右支那軍司令部は南支、那倫方面軍司令部は輸送
 地を以て断絶し、北支、浙江方面に對し、上陸

作戦を實施せり。其状況尤。如し。

三省鐵路起断作戦 (昭和十六年二月)

甲支隊 (歩兵三箇大隊其の隊) を

以て白耶古橋より上陸し淡水沙魚涌を占

領し香港より韶慶に送る物資を鹵獲す。

又別に乙支隊 (歩兵三箇大隊其の隊) を深圳より

龍園墟を攻めしむ。

雷州方面起断作戦 (昭和十六年三月)

第一支隊 (歩兵三箇大隊其の隊) をて崖海集

斗山附近に上陸せしむ。占領して其附近に并發

附近を掃蕩せしむ

第二支隊 (歩兵三箇大隊其の隊) をて大石崗

附近に上陸せしむ。占領せしむ

第三支隊 (歩兵三箇大隊其の隊) をて教

108

1890

109 6

水東邊

附近に上陸せしむ

4. 第四支隊(新編第三師団)の福州

附近に上陸せしむ

5. 第五支隊(新編第三師団)の北海

附近に上陸せしむ

6. 吉武支隊(分兵三箇支隊)の新会

附近に上陸せしむ

揚子江に上陸せしむ

三沙尾方面に新編第三師団(昭和十一年一月一日)

近衛師団の分兵三箇支隊の福州に上陸

七以上沙尾附近に上陸し沙尾海豊隊は

附近に上陸し利敵物資を押収す

福州作戦(昭和十一年一月一日)

第四支隊の分兵三箇支隊の福州に

104
H0

占領せしむ

五、甲子海運建設概略 (昭和十一年五月)

第四十八師團の分隊一箇を待てし甲子港

(此海運建設)

及礪石に上陸揚子港す

以上の如く概略に直り上陸建設と概行せしむ

海運建設概略の概略と海運建設の概略

意の如く概略と海運建設の概略と海運建設の概略

概略と海運建設の概略

1892

108

引揚援護庁復員局

第二節 南支那方面統帥組織の沿革

既述の如く

昭和十五年九月我軍の一部北部佛印に近駐せしが更に南方より對空慶歴區の強化其他諸般の要請に基き日本政府は昭和十六年七月佛國ウイニ政府に対し共同防衛の見地より交渉を迫り七月下旬南部佛印も駐兵するに至りたり。

斯る状況に於て大體當は昭和十六年七月五日南支那方面軍の統帥序列を解き第三十三軍及第三十五軍の統帥序列を令し第三十三軍に對しては印後支那に關する事項を除く南支那方面軍司令官の任務を又第三十五軍に對しては印後支那に關する南支那方面軍司令官の任務を夫々繼承せしめ此の爲め八月の大東亞戦争を以て起したるに際し第三十三軍及第三十五軍の統帥序列の概要は

東京・青山派作稿

1893

如し。

左 記

一、第三十三軍戰鬥序列。概要

第三十三軍司令官 中佐 今村 均

第三十三軍司令部

第三十八師團

第三十八師團

第四十八師團

第四十八師團

独立混成第十九旅團

第一獨立步兵隊在野

獨立步兵隊第二十六及第二十七大隊

獨立山砲兵隊第十聯隊

獨立山砲兵隊第二大隊

迫撃隊第二十一大隊

獨立工兵隊第十五聯隊(甲)

獨立工兵隊第十九聯隊

獨立工兵隊第三十聯隊

電信隊第十四聯隊

一、第三十五軍戰鬥序列。概要

第三十五軍司令官 中將 飯田 祥二郎

第三十五軍司令部

近衛師團

独立混成隊第三十一旅団
 戦車隊第十四隊係
 野戦砲隊第二十一中隊
 高射砲隊第二十三隊
 第三十一独立飛行隊
 独立飛行隊第八十二中隊(後部)
 独立飛行隊八十四中隊(後部)

南支那方面作戰記錄第一卷

1897